

人間の、肉体や精神を通じて今日に及び、大和民族として、陛下の赤子として、社会の一員として、此世に生を營み、將來亦我等の肉

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

## 國體觀念

### 涵養具體案（一）

大内民惠

記者は本紙一月號に於て、文部大臣は素人大工の棟梁の如きもので、多くは政黨屋であり、伴食大臣であつて、彼等は往々教育職工や教育難夫などを集めて柄にもなく學制改革など、稱して、くだらぬ遺線設計をやり出すが、其が言く出來上つた處で、もとよりさして効果あるものでもなく、或は其が完成しないうちに交迭して、其儘お流れになつて仕舞ふ事が多いと云ふ事を述べてあつたが、どうやら我輩のいふ通り

鏡止水の心境を以て、文教の府の神聖を保つ爲に、善處するといふ工合に、其挂冠を決意せるが如くであつて、其後は親方の齋藤首相が兼攝するといはれて居る。而して一般國民の明鏡止水には、まさか間本は氣狂ひぢやあるまいし、奴さんどうく馬脚をあらはしたと映つて居るらしいはてさてどうした状態では

何時眞の教育制度が建設され、教育の徹底が期せらるゝか、實際百年河清を待つが如きものであつて、帝國將來の爲長嘆息せざるを得ないのである。處で記者は國民全體が大に覺醒して徹底的改革を斷行し得る機運が到來しなければ、如何とも致し方がない事と思はるゝので、かうした根本的問題は、暫時お預りする事として、所謂教育職工や教育難夫等でも、可能性のある茲に掲げた問題について、私見を提唱しようと思ふ。

臘十一月、福島市に於て、奥羽六縣北海道教育大會が開催せられた時に文部大臣から國體觀念の涵養に關し特に留意すべき點如何といふ諮問案に對して、委員附託で調査審議を遂げ、

之に對するしたのであるが其内容は、大體小學教育について、國體に關する教材を系統的に研究して其取扱に十分意を注ぐ事。小學教育の訓練上國體觀念を涵養すべき訓練要目を調整し兒童の實生活を常にこれによつて統制せしむる事。小學教師は國體に關する明確なる思想と強き信念を有し自ら國體觀念を體現し全體員協力一致以て之が涵養に努むる事云々といふやうな事であつて、至極最もな次第であると思つた。又別に

其文中に深く聖旨を奉體し、戮力以て國體の觀念を明徴にし日本精神を顯揚し云々と此亦立派な聲明をして居る。されど其後親しく奥羽六縣及北海道に於ける、小學教育の實際を展望するに右の答申や宣言に聲明して居る點が何ばかりも現して居る様には見うけられない。但し福島師範附屬小學校で研究され發表されてある、國體精神涵養に關する施設は、眞に結構なものであるが、一般學校が、之を實施しやうと

いふ様な、眞剣味が見えないのは頗る遺憾な次第である。之を要するに大會の答申とか、宣言とかいふものは、お祭騒ぎに附きもの、一つの儀禮的美辭麗句であり、一つの其の場合限りの怪氣煽に過ぎない感なきにしもあらずである。其答申をうけた文部省も恐らく肩籠に放り込んで仕舞つた事であらうし、教育家連中の頭の中には、何物ものこつて居ない事と思はれる。かくては文部省としても、將た教育者といふものゝ態度としても、餘りに相濟まぬ次第であるといふ可きである。故に記者はこゝに、全國の小學校に於て、いやでもおうでも、實施行せざるべからざる國體觀念涵養に關する具體案の一つを提供して之が實行實現を期してもらひたいと思ふのである。我國の國體の精華は、先生方の答申中にもある通り、萬世一系の皇統を戴き、君民一體である處にある事は勿論で國民の總てが

神崇祖、報本反始の精神を以て、其本分を盡すべきであると思はれる。其精神の涵養が即ち國體觀

（黒井海軍大將より寄せられたる書簡の一節）  
前略 最近御送被下候村報ニテ國體伊勢參宮ノ記事及諸氏ノ感想等仔細ニ拜讀大ニ感ズルトコロ有之申候近來東京ニハ小學校長等ノ珠子繫ギ堅ギアリ長崎大學ノ博士賣買醜聞アリ教育勅語ハ之等ノ醜徒ニ依テ捧讀セラル、カト思ヒ候ヘバイヤニ相成申候爲政者自カラ反省セズカヲ以テ政治ノ要諦ト心得居ル政黨政治ノ餘弊トハ申セニガタク敷極ミニ御座候道義ノ教育ガ第一ニシテ猿ニ藝當ラ仕込ム的ノ教育ニテハ日本モ遂ニ外道ニ墮スルノ外ナシ要ハ國民ノ總ベテガ自省修養徳性ヲ涵養スル様努ムルノ外ナシ噫 下略

九年二月十六日夕 黒井生

（以下二面（續））

本紙發行は大内一家の事業にして、其の取組は子孫に對する遺言を承るものなり。

本紙を第一號五錢一ヶ月後後共金五錢  
發行所 内郷村報社  
編輯所 内郷村報社  
印刷所 内郷村報社  
電話 内郷村報社  
郵便 内郷村報社

(一面より續く)  
念涵養となる事も亦當然であると思はれる。  
記者はかうした見地から現在我小學校教育に於て、如何なる教材を以て、之が教育をなすつゝあるかに思ひ及び、  
修身、  
身國語及歴史教科書全部について、之を調査して見たのである。

尋常科一學年、  
十六、テンノウヘイカ。十七、チユウギ。  
尋常科二學年、  
十五、テンノウヘイカ、十六、チユウギ。十九、ソセノヲフトベ。  
尋常科三學年、  
第一、皇后陛下。第二、ちゆうくんあいこく。第十五くわうたいじんぐう。第十六、祝日。  
尋常科四學年、  
第一、明治天皇。第三、靖國神社。第五、皇室を尊べ。第二十二、國旗。第二十三祝日、大祭日。  
尋常科五學年、  
第二課、皇后陛下。第三課忠義、楠公。第二十七課、よい日本人。  
尋常科六學年、  
第一課、皇大神宮。第五課忠君愛國。第六課、忠孝。

第七課、祖先の家。  
高等科一學年、  
第一課、我國。第二課、愛國。第三課、家。  
高等科二學年、  
第一課、建國精神。第二課御歷代天皇の御盛徳。第三課、國民誠忠。第四課、國體

の精華。第二十六課、斯の道以上が我國教育の中樞をなす修身科の、國體觀念涵養に關する教材と見るべきものである。之に對して聊か論評を試み、記者の希望を述べて見やうと思ふ。  
以下次號二月二十八日稿

### 昭和九年度豫算決定

二月二十七日、同二十八日の二日にわたり、村役場に村會開議、左記諸件を附議決定した。

内郷消防組員増員、河川工事及道路工事潰地買収、村基本金預入銀行決定、歳計現金預入先議決、小學校長慰勞金支出、内郷村吏員互助會會費補給規定設定、一時借入金議決、村税賦課率決定、款内流用專決處分議決、寄附採納、昭和八年度内郷村歳入出追、豫算議決、昭和九年度内郷村歳入出豫算議決、昭和七年度内郷村歳入決算認定の十三件にして、九年度歳入歳出豫算は左の通りである。

歳入	拾壹萬七千七百拾貳圓、
歳出	拾壹萬七千七百拾貳圓、
内譯	拾壹萬貳千貳百貳拾圓
經常部	

而して歳出の重なるものは、役場費壹萬貳千五百六拾七圓、小學校費七萬壹千參百九拾六圓にして、多年問題になつて居つた、第一、第三兩小學校に於て、各六學級増加の件も、近く實現の運びになつて居るとの事である。

### 方面委員

取扱件數  
昭和九年二月分  
生活扶助  
法令に依るもの  
然らざるもの  
保健救療  
法令によるもの  
然らざるもの  
兒童保護  
法令に依らぬ者  
相談指導  
戸籍整理  
職業其他紹介

生活扶助	一五
法令に依るもの	九二
然らざるもの	二
保健救療	四
法令によるもの	四四
然らざるもの	二四
兒童保護	七
法令に依らぬ者	七
相談指導	二七
戸籍整理	
職業其他紹介	

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ニ御試驗ニ基ク真學堂國ノ大神ヲ拜仕任ノ不忠感激ニ打テ申候云々。

教化  
其他  
計  
現在カド登録者  
第一種  
五五世帯  
第二種  
一三七世帯  
生活安定  
四世帯  
行衛不明  
六世帯

### 方面委員任命

缺員中であつた十三區方面委員として二月六日山下喜代治氏が任命された。

内郷信用組合  
有限責任内郷信用購買組  
は、年を遂ふて順調に發行しつゝ、あるが、本年度に於ては、貳千四百拾九圓拾參錢の純益を擧げ、内七百五拾圓五拾壹錢を準備金とし、參百圓を特別積立金とし、壹千貳百五拾圓八拾五錢を配當し(出資拂込濟額に對し年五分)他は役員慰勞金及次年度繰越金とした

東京	秋山 角彌
内郷	松本 大
同	福羽 堅三
同	山下喜代治

る由。左に報告書の抜萃を掲載する。  
本年度内の貸付總額四萬五千八百七拾參圓四拾四錢。償還總額參萬參千八百九拾七圓八拾八錢。年度未現高五萬八千二百、拾壹圓六拾壹錢此件數二百十六件。組合員の貯金現在高七千六百四拾九圓貳拾參錢。組合員外の貯金現在高貳萬四千四百圓九拾貳錢等にして、何れも前年度より増加を示し、貯金の如き前年に對比し、受入に於て四萬六百餘圓を増し、繰戻に於て參萬參千餘圓を増し、年度未現在に於て八千七百餘圓の増加を示すといふ好成绩を擧げ、貸付金の用途別を示せば、肥料資金六百四拾餘圓、養蠶資金貳百圓、農具資金五拾圓、土地資金貳千參百餘圓、家畜資金參百七拾餘圓、商業資金貳萬九千五百餘圓、經濟資金六千餘圓、舊債償還資金壹萬八千四百餘圓等であつた由。因に組合員數は二百八十一名で、出資口數は一千三百十四口の由である。

發行所 日本評論社  
東京三丁目  
取次所 内郷村報社

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ニ御試驗ニ基ク真學堂國ノ大神ヲ拜仕任ノ不忠感激ニ打テ申候云々。

### 教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民憲 著  
服部宇之吉 譯  
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

### 天照節制定に關する

請願書を提出す

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ニ御試驗ニ基ク真學堂國ノ大神ヲ拜仕任ノ不忠感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社  
東京三丁目  
取次所 内郷村報社

七島徳太郎外二五五名  
若松市 渡邊 辨了外一三三名  
耶麻郡喜多方町 藤原 三三三

和歌山縣和歌山市 九名  
林 英造外  
岡山縣川上郡手莊村 大塚 繁雄外三九名

寫眞を映寫して慰安した。  
七ヶ年健康被表彰者  
伊藤 留次 伊藤 廣吉  
市川 善長 渡邊 昇  
藤谷 益太 加藤 明青

よい日本人。尋常科六學年、第一課、皇大神宮。第五課、忠君愛國。第六課、忠孝。

拾壹萬七千七百貳圓、拾壹萬貳千貳拾圓、內譯、經常部

法令に依らぬ者、相談指導、戶籍整理、職業其他紹介

四四、二四、七、二七、勞金及次年度繰越金とした

金壹圓、金壹圓、金貳圓、金壹圓

京都、秋山、角彌、内郷、松本、大

同、福羽、堅三、山下喜代治

同、山下喜代治

同、山下喜代治

同、山下喜代治

同、山下喜代治

### 教育制度改革概論

矢野恒太 大内民惠著  
（四六版二一頁 定價五十錢 郵稅六錢）  
行き詰る現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。味し未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕！不思議敬ニ打テレ申候云々。

發行所 日本評論社  
東京三丁目  
取次所 内郷村報社

## 天照節制定に關する請願書を提出す

既報の通り全國より贊同署名を給はりたる天照節制定に關する請願書は、二月二十日を以て切り、製本の上、記者親しく之を捧持して同二十一日上京、皇太子殿下御降誕祝賀日の第一日たる二十三日の佳節に衆議院は比佐昌平鈴木辰三郎の兩氏、貴族院は金成通油井德藏兩氏の紹介を願つ



（持捧る書願請者記者記）

て滞りなく提出した。署名者は、縣内二千七百十三名、縣外千四百十九名、計四千三百三十二名、貴衆兩院を合はすれば實に八千二百六十四名の多數に達した。而して衆議院は規定により、便宜五十五冊に分冊し、貴族院は一冊にして之が副本を添へた。其代表者の氏名は左の通りである。

同郡平町	青沼鋒太郎外	一九〇名
小檜山久作外	六九名	
篠山 廉外	七六名	
同郡好間村	七九名	
吉田庄太郎外	七九名	
同郡勿來町	四九名	
赤津庄兵衛外	四九名	
同郡江名町	四九名	
河野 嘉藏外	四九名	
同郡植田町	四九名	
長瀬 米次外	四九名	
同郡小名濱町	六六名	
小野 普平外	六六名	
安達郡杉田村	三五名	
柴田 清藏外	三五名	
石川 庄次外	三五名	
菅野 菅根外	五三名	
原徳左門外	一〇〇名	
渡邊卯平治外	三七名	
高根 兵作外	五七名	
福島市	一外二〇二名	
伊達郡桑折町	一外二〇二名	
菅野 廣諾外	一〇三名	
同郡川俣町	四六名	
石川 政十外	四六名	
大野 運吉外	二九名	
安達郡二本松町	二九名	
七島徳太郎外	二五五名	
若松市	辨了外一三三名	
渡邊 辨了外	一三三名	
耶麻郡喜多方町	三九名	
上野 覺雄外	三九名	
相馬郡中村町	八七名	
八幡 義教外	八七名	
岩瀬郡長沼町	三三七名	
磐瀬 弘治外	三三七名	
（縣外）		
東京市	淺野總一郎外二二〇名	
足立 良嗣外	三一一名	
北井秀之助外	一九六名	
山下 恒太外一八九名	二八名	
町田 虎市外	二八名	
上田 忠造外一〇二名	七九名	
藤枝辰之助外	七九名	
北海道札幌市	松野 傳外 八三名	
樺 太泊居町	傳外 八三名	
渡部 孝外	五一名	
青森縣青森市	三上祐三郎外 九名	
石川縣金澤市	荒崎 良道外 五七名	
奈良縣奈良市	内門 正平外 二四名	
横須賀市	大内 泰治外 二九名	
徳島縣勝浦郡小島町	林 寛太郎外 二一名	

謹啓 此度講演の爲御地方へ出張の際は種々厚き御高配をいたゞき誠に有り難う御座いました略儀ながら紙上を以て幾重にも御禮を申し上げます  
昭和九年三月一日 大内民惠  
岩瀬郡神職會第三班各位御中  
同長沼町梓衝村牧本村御有志各位御中

### 御禮

### 健康者表彰

警察健康保險組合では、二月十八日淺野翁頌徳記念館に於て、一ケ年乃至七ケ年に亘る健康者五五八名の表彰式を舉行した。理事長濱崎善三郎氏開會の挨拶を述べ、表彰状及紀念品を授與し、田中宇一郎氏來賓を代表して祝辭を述べ、三林寅太郎氏一同を代表して答辭を述べて式を終へ、活動

和歌山縣和歌山市	林 英造外	九名
岡山縣川上郡手莊村	大塚 繁雄外	三九名
茨城縣多賀郡日立町	根本 敬松外	六名
新潟縣新發田町	桑原 勇外一〇六名	六名
香川縣香川郡弦打村	佐々木高榮外	三九名
埼玉縣川口市	岡部 泰淨外	一九名
島根縣松江市	太田登之助外	一〇名
鳥取縣東伯郡由良町	竹歳 元太外	九名
高知縣高知市	山本嘉太郎外	一六名
山形縣山形市	小林 益井外	三九名
西川壽恵吉外	二四名	
小林 孫市外	八名	
貴族院の部	大内民惠外四二二一名	尚子爵三室戸敬光海軍大將
黒井悌二郎の兩氏より種々	緊切なる御注意をいたゞいた。	

### 縣表彰

紀元節當日本村御厩巡查駐在所詰巡查高橋勇、方面委員大内民惠の兩氏は縣知事より、村議草野三千雄氏は縣體育協會會長より、それ／＼表彰状に添へて金品を授與された。

### 帝國在郷軍人會

多年其成立を翹望されつゝあつた同會も、漸く其機運到來、諸般の計畫準備整ひ、來る十一月、淺野翁頌徳記念館に於て盛大なる發會式を舉行せらるゝに到りたる由。慶賀の至りである

